



2. 調査の趣旨・スケジュール概要

松田, 毅

(Citation)

住民参加による被災地のアスベスト飛散調査への参加・協力 : 調査報告書:4-5

(Issue Date)

2013-03

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009563>



2. 調査の趣旨・スケジュール概要

計画を立案した、申請段階での調査の趣旨とその概要は以下の通りであった。

[1] 概要

NPO 団体、住民に協力し、ESD 演習・倫理創成論演習を利用して、住民参加による被災地のアスベスト飛散調査に協力する。

[2] 目的

阪神大震災では倒壊した建物の瓦礫処理により、アスベスト曝露が原因の中皮腫を発症し、労災認定を受けた事例がある。この例により、東日本大震災後も、被災地のアスベスト飛散の状況を把握し、対策を取ることが重要であることが理解される。すでに現地で地元病院、地域住民と協力して、調査を行っている NPO 法人、東京労働安全衛生センターの調査に学生、大学院生とともに参加・協力することで、この問題解決に貢献する。

同時に、調査方法に習熟することを通して、今後も想定される震災発生時に神戸大学が独自に調査を組織するノウハウを身に付けることで広く地域社会の安全にも貢献できる。さらに、ESD コースに参加する学生、大学院生にとって大きな教育的効果が期待される。

今回の計画は、代表者がこれまで、ESD コースおよび倫理創成プロジェクトの活動と連動して、取り組んできた、アスベストによる健康リスクに関する、アクションリサーチを基盤にした、環境リスクの倫理学の教育研究の中に位置づけられる。NPO 法人、東京労働安全衛生センターとは、震災時のアスベスト曝露を防止するための活動である「マスクプロジェクト」などで協力関係にあるが、外山尚紀氏は東日本大震災発生直後から、石巻市で地元病院および地域住民と協力し、現地調査を行い、その結果報告と対策の説明、相談活動を行っている。このうち、石巻市の調査に参加した。具体的には、

- (1)瓦礫および瓦礫の仮置き場、倒壊建築物の中のアスベストの状況調査
- (2)再生砕石調査、空気環境のアスベストの濃度測定調査、表面汚染度調査
- (3)瓦礫と建築物の中のアスベスト含有建材の見分け方法の試行実践
- (4)採取サンプルの分析結果のまとめ

の内、(1)から(3)に参加する。その後、ESD 演習と倫理創成論演習においてその結果についてまとめ、レポートを作成し、自治体、地域住民にも報告を行う³。以上から、ESD コースおよび倫理創成プロジェクトの活動と連動して、取り組んできた、地域の市民と協力して行う、アクションリサーチ型のリスク論の教育・研究をより具体的に実践してみることで、その有効な方法、モデルを作ることが期待される。

³実際には、この計画のうち、(1)を試行するにとどまった。

また、一般にアスベストサンプルの分析には電子顕微鏡などによる精査が必要とされている中、ルーペなどの簡単な器具でも、アスベストの見分けが可能であることを実際に、検証してみせることで、環境リスクに関する認識を改善する方法も提供できる。

上述のように、そのような調査方法に習熟することを通して、今後も想定される震災発生時に神戸大学が独自に調査を組織するノウハウを身に付けることで広く地域社会の安全にも貢献できる。さらに、このような調査自体が、具体的な問題について、自然科学的アプローチと社会科学要素も取り入れていることから、学際的視点を重視する、ESD コースに参加する学生、大学院生にとって大きな教育的効果をもつことが期待される。

以上が当初の計画である。

・現地調査のスケジュール概要

現地、宮城県は、6月の時点でも特に鉄道を始めとする公共交通の復旧が進んでおらず、バスとレンタカーによる移動となった。

■6月22日

- ・新神戸から仙台に移動、宿泊した。

■6月23日

仙台からバスで石巻へ移動（協力者と合流）、石巻市内からはレンタカー利用。

- ・日和山公園などで石巻市の被害概要を把握した。
- ・石巻赤十字病院矢内勝呼吸器科内科部長のレクチャーを受ける。
- ・大川小学校での慰霊を行った。

■6月24日

- ・リスク調査のための事前レクチャー
 - ・石巻瓦礫処理場などの見学
 - ・石巻市渡波地区でグループに分かれ飛散状況の調査を実施
- その後、仙台から神戸に移動し、解散。

石巻市内の瓦礫置き場
(右図) 2012.6.24

